

---

# ボクと旅する～弐～

デンジャラス じ～さん

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ボクと旅する〜式〜

### 【Nコード】

N4054B

### 【作者名】

デンジャラス じ〜さん

### 【あらすじ】

自転車で旅する少年が、山小屋で雨宿りした時のお話。

## (前書き)

この作品はフィクションです。なので、現実的に関係ありませんよ。それでは、どーぞ

外は曇っていて、雨が降りだしそうだ。

俺がこれからコーヒーでも飲もうと立ち上がったって、キッチンへ向かおうとしたその時。

「ドンドンドン。」

と、家の扉を叩く音が聞こえた。

俺が

「何の用だい？」

と声を張り上げて聞くと、外から、

「雨が降ってきてそうなので、雨宿りをさせてください」と言う声が聞こえた。若い声だ。

「いいぜ。今開けっからな。」

断る理由もないから、俺は扉を開けた。

そこには、白いTシャツに青い短パンの12歳くらいに見える少年が立っていた。

「はいれよ。今コーヒーでも出すから」

俺はそういつて招き入れた。

「ありがとうございます。」

少年は顔をこわばらせたまま、椅子に静かに座った。

「あんた、名前は？」

気まずい雰囲気が消そうと、明るく声をかけた。

「別に名乗る程いい名前じゃありませんよ。あなたは？」

「俺か？俺は、ケンジっていうんだ。」

「じゃあ・・・お前は、どこから来たんだ。」

俺は聞き返した。

「僕は・・・ここからずっと東の方にある港街から来ました。いろいろあったもので。」

「そーか・・・わけえのに大変だなあ。はいよ、コーヒー。飲めるか？」

俺はコーヒーを少年に手渡した。

「はい。大丈夫です。いただきます。」

と、少年は一口、コーヒーを煤った。それから、

「ケンジさんは、どうしてこんな山奥に住んでいらっしやるんですか？」

と聞いてきた。

「俺も昔は街に住んでたよ。でもな。追い出されちまったんだよ。住民にな。」

「はあ。何故？」

俺は続けた。

「何故かって？そんなもん、こっちが聞きてえくらいさ。街のやつら、俺に向かって

「死ね」

だの

「デカブツ」

だの言いやがる。しまいにやガキに石を投げられる始末さ。俺は耐えきれなくて、すぐに街を出て、この山小屋を見付けたんだ。」

昔の事で、あの腹立たしさを思い出して、俺は少し熱くなつてた。

「そうだったんですか。それでこんな山奥に、一人で。」

「そうよ。だからな、今日はお前が来てくれて少し嬉しいんだ。久しぶりの話し相手だからな。」

俺は笑ってみせた。だが、少年の表情は変わらぬままだった。

いつのまにか、雨が降っていた。

俺は、少年にコーヒーの御代わりをやって、それから旅の道中の話を聞いた。

「知りたがり屋の子どもかあ。可愛らしいねえ。将来は研究員かなんかかな？」

「そうなるかもしれないね。でも、先なんてわかりませんから。」

「おいおい・・・それを言っちゃあ夢がないぜ。あんただってまだ子供なんだからよ。」

そういうと、少年は

「僕は、夢をみないようになっているんです。」  
と言った。

「夢をみないように？何故だい？」

すると少年は少しだけ、ほんの少しだけ、顔を歪ませて、

「ろくなことがないからです。僕はそのせいで家を失いました。だから、もうみないことにしてるんです。」

と強く言い放った。

「なるほどね。でもよ、それじゃあこれから先つまらんだろ？」  
すると少年は、今度はほんの少しだけ顔を微笑ませ、

「僕は、まだ死にたくありませんから。」

といった。

雨はすっかりあがってしまって、空には虹が架っていた。

「それでは、雨も上がったみたいなので、僕はこれで。お世話にな

りました。「と深々とお辞儀をしてきた。

「なんだ。もういくのかい？楽しかったぜ。また、機会があったら来てくれよ。」

「はいそうします。」

少年は濡れたサドルを拭いて、鍵を外して、それから、もう一度俺に礼をしてから自転車で西に向かっていった。

さあてと……。昼寝でもするか。

空に架っていた、虹はもう消えていた。

(後書き)

いかがでしたか？今回、ワタクシ視点を変えろという必殺技をくりだしたのですが・・・。暇潰しシリーズ第三段！！まだまだ続きますのでよろしくどうぞ。それではまた、機会があれば。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4054b/>

---

ボクと旅する～式～

2011年1月16日08時50分発行